

この章では、
浅草の「まちづくりビジョン」を掲げ、
本図案の「まちづくりのコンセプト」を
示します。

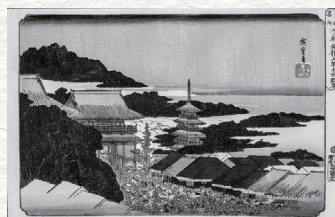
I はじめに

Q

歴史が

あるまち浅草は、

ふる
旧いの
か。



1,400

years of
history



A

浅草は、常に変化を
取り入れてきた
歴史がある、
新しいまち。

浅草は歴史があるまちです。

資料をひもとくと、その始まりは飛鳥時代にまでさかのぼると言われ、以来、浅草は浅草寺の門前町として1400年にわたって人々に愛されてきました。浅草が、歴史があるまちであることは疑いようがない事実ですが、ここでひとつの問いが浮かびます。

それは、歴史があるまち浅草は、^{ふる}旧いのかという問いです。

実は、浅草は旧く見えるようで、常に新しいことを取り入れ、変化してきたまちです。

時代によって変化する、愛されるまちの在り方。

これからも浅草を、まちのみなさまにも、まちを訪れるみなさまにもますます愛されるまちにしていきたい。

本図案では、そんな思いを込めて、

これから20年後を見据えた、まちのビジョンやコンセプトを描きます。

歴史がある、 新しいまち浅草

これまで浅草が積み上げてきた歴史や文化を尊重しつつ、新しい考え方や時代の変化も柔軟に受け止めながら、まちが生みだす賑わいや魅力をさらに広げていきます。

浅草で培われてきた暮らしや営みを大切にしながら、“住むまち”としての価値も高めていきます。





二十年后から語る

浅草のまちものがたり

2047年の浅草は、浅草寺の門前町としての文化資源価値がますます高まり、その独特の文化を求めて国内外から人々が集まるまちになっています。変わらずたくさんの人が集まるまち・浅草は、この20年間の取り組みによって、「まちづくりの理想形」として、たびたび話題に挙がるほどになりました。

まちに住む人 商いをする人 から見た浅草

浅草は、昔と比べるとずいぶん過ごしやすくなりました。かつての浅草は、まちの一部に人が集中していて、浅草寺周辺はまるで混雑時の電車に乗っているようでした。観光客が集まるエリアは避けていましたし、住んでいるまちなのに、人が多すぎて自分たちのまちではないような気持ちになることもしばしば。今では、魅力的な文化拠点が点在するようになり、たくさんの人が訪れている割に混んでいない、過ごしやすいまちになりました。

昔は観光地に住むと大変だねと心配されることもありましたが、そんなことはありません。浅草は楽しい時間を過ごすまちですから、行き交う人もみな笑顔。粋な下町人情を感じるまちの様子を見ていると、なんだかこちらもいい気分になってきます。

ここ20年の取り組みでまちが快適になり、みんなの心にもずいぶん余裕が出てきたように感じます。浅草の文化を際立たせる試みの中で、浅草六区を中心に娯楽施設が増えました。どこでも娯楽にアクセスできる時代と言われて久しいですが、こんなに「本物」を感じる娯楽が楽しめるまちは、浅草を置いてほかにありません。

浅草には多面的な魅力があります。少し歩くとまちの景色がめまぐるしく変わります。観光・産業・商業・芸能そして隅田川の自然…。時間軸という観点でも浅草は多面的。一年を通して地域行事があり、そのたび季節の移ろいを感じさせてくれます。

歴史があるからこそ、ほかのまちには真似できないオリジナリティがあり、その唯一性を求めて「このまちに住みたい」という若者も集まってきています。

まちを支える若い世代が集まってきているのも、浅草がまちづくりの理想形として注目される理由のひとつですね。

まちを訪れる人から見た浅草



浅草はまず、入口からしてすばらしいまちです。隅田川から浅草に向かう小さな船旅は、特別な気分が味わえます。デッキに出て、気持ちいい風と太陽を浴びながら北へ進み、すれ違う船の乗客が見えると、こちらもよりいっそう心が躍ります。この20年で隅田川の水上交通はその価値が見直され、ずいぶん多くの船が行き交うようになりました。

江戸・東京の人々の暮らしに想いを馳せて景色を眺めていると、あっという間に浅草の船着き場に到着します。そこには広い空と豊かな水辺が広がっていて、ここでしばらく時間を過ごしたくなります。この水辺は、まちづくりを研究する世界中の有識者が視察に訪れるほどレベルが高く、これだけ美しい景観を持ちながら、災害対策にもなっているというから驚きです。

また、浅草は多くの人が日常的に利用する鉄道

も特別です。駅には、このまちらしい演出が施され、「いよいよ浅草に来たな」という気持ちにさせてくれます。かつて、使い勝手が悪いと言われた地下空間も、今は見る影もありません。バリアフリーが施され、誘導サインもわかりやすく、各路線の行き来もしやすい。利便性とオリジナリティが見事に融合したまちの入口になっています。雷門・仲見世通り・浅草寺…。古くから続く門前町には、今日も活気と下町情緒で満ちています。長年浅草で商売をされている方からまちの歴史や見所を教えてもらったりできるのは、まさに浅草ならではの「粋な買い物体験」だと感じます。

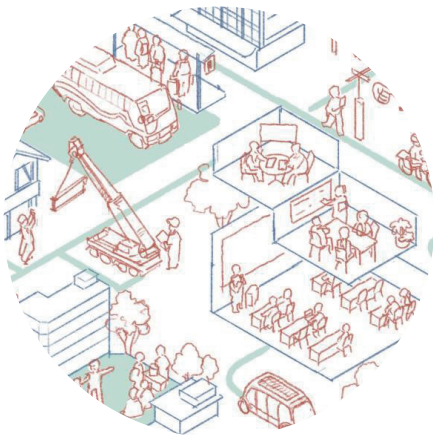
まちの中心部を楽しんだ後は、観光情報にアクセスして、周囲のエリアを楽しみます。近くであれば歩いて安全に行けますし、少し離れたエリアでも、さまざまなモビリティがあるので安心です。まちの情報や中心部以外のエリアにアクセスしやすくなったのも、この20年の大きな変化。エリアごとに特色があり、年中地域行事をやっている浅草は、訪れるたびに新しい発見と出会えるまちですね。

まちづくりのコンセプト

まちに住む人、商いをする人、関係事業者らの声から描いた浅草を実現するために、
本図案では、3つの「まちづくりのコンセプト」を立てます。

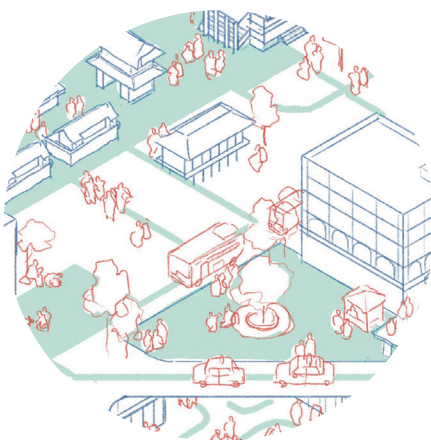
快適性を 磨き上げる

季節の移ろいにあわせ、
多面的な魅力が広がる。
人とまちの安全に配慮された
取り組みが進む。
多様な移動手段が結びつき、
アクセシビリティが高まる。



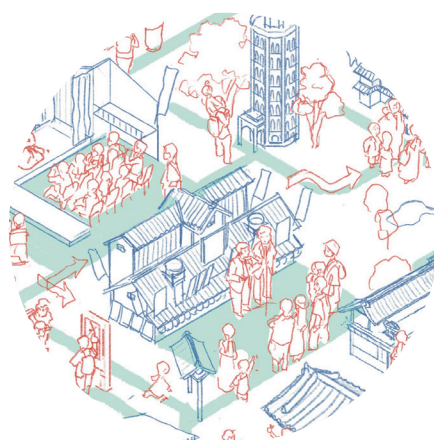
人・まちを 結わえる

エリアごとに特色のあるまちで
ゆったり過ごす。
駅まち空間では、浅草に来た
「高揚感」が高まる。
水辺とまちが近く、船に乗れば
色々な場所へ行ける。



文化を 際立たせる

下町情緒溢れる文化拠点が
あちこちに点在する。
ここにしかない文化・
コンテンツがたくさんある。
たくさんの人を心地良くさせる
おもてなしがある。



コンセプトの実現に向け 大切にしたいポイント

浅草には多様な特性と魅力があり、場所に合った取り組みを進めることが大切です。

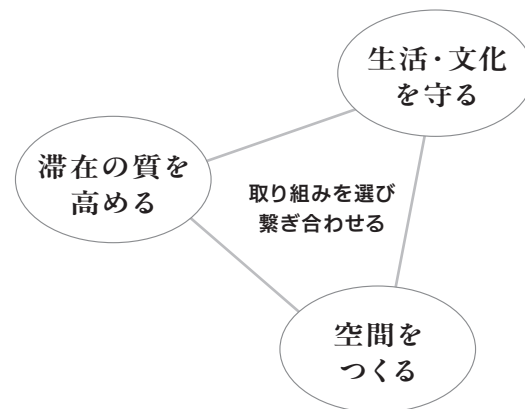
例えば、
・地域の暮らしが根づいた場所では、その生活や文化を大切にする。

・観光客が多く訪れる場所では、おもてなしや滞在の質を高める。

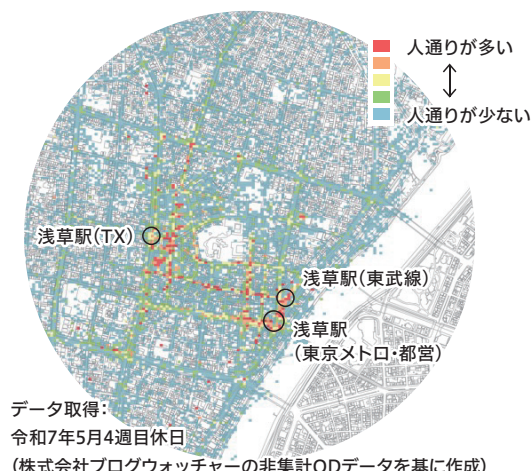
・人通りが多い場所では、滞留のためのゆとりを確保するために新たな空間を創出する。

このような多面的な取り組みを場所にに応じて選択し、繋ぎ合わせることで、

まちづくりのコンセプトの実現に繋がり、浅草のまちがさらに成熟していきます。

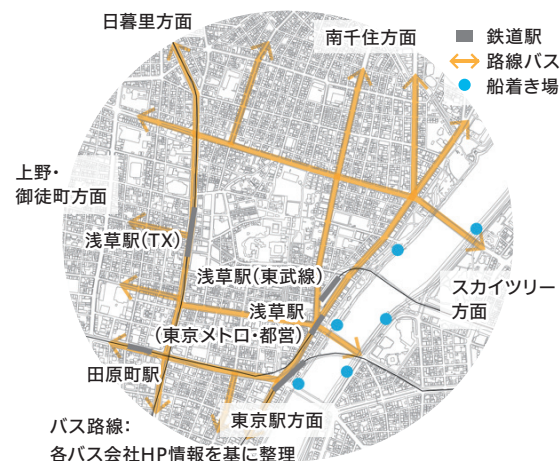


来街者の回遊動向(人流の傾向)



来街者の動向は、人通りが多い場所と少ない場所
で分かれています。鉄道駅を中心に人の集積と広
がりが見られ、人の集まり具合に応じて取り組みの
あり方を考える必要があります。

交通(鉄道・路線バス・舟運)の状況



地区内には、東西あわせて4路線の鉄道駅があり、
各駅を経由する形で路線バスのルートが形成され
ています。また、船着き場が南北にかけて複数箇所
に整備されており、舟運による広域的な移動も可
能となっています。

主な地域資源(モノ・コト)の状況



地区内の観光の中心となる場所や、地域の方が住
まうエリアとも、各場所の個性が生かされたイベン
トや、地域のくらしやなりわいが根づいた産業が
多々展開されています。

■ 土地利用の現況

浅草寺周辺の地区の中心エリアには商業用地が多く、言問通り以北のエリアには住宅用地が多く分布しています。



- 住宅用地
- 商業用地
- 工業用地
- 公共用地
- 公園、運動場等
- 鉄道・港湾等
- 未利用地等
- 水面

出典：
土地利用現況調査
(東京都, 令和3年度)

■ 緑被地分布状況

特に浅草寺周辺や隅田公園、待乳山聖天等で、樹木や草地在りまとまって分布している状況となっています。



- 樹木被覆地
- 草地
- 屋上緑化
- 裸地
- 水面

出典：
台東区みどりの
実態調査(平成31年度)

■ 建物別築年数(R3)

築年数が新築～10年未満の建物も見られますが、大半が40年以上経過した建物となっており、今後、多くの建て替えが進行すると想定され、その対応が求められます。



- 40年以上
- 30年以上～40年未満
- 20年以上～30年未満
- 10年以上～20年未満
- 新築～10年未満
- 不明

出典：
土地利用現況調査
(東京都, 令和3年度)

■ 地区内の主要な商店街

地区内の多くの街路や通りに、個性豊かな商店街や商店会等が分布しており、商業を主とした生活やなりわいが息づいています。



- 商店街・商店会等

出典：
台東区資料